

集中豪雨や台風への備え

集中豪雨

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことです。梅雨の終わりがちによく起こります。狭い地域に限られ突発的に降るため、その予測は比較的困難。中小河川の氾濫や土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害が予測されます。がけ付近や造成地などは気象情報に十分注意し万全の対策をとるようにしましょう。

〈1時間の雨量と降り方〉

1時間の雨量	雨の降り方
10～20ミリ	ザーザーと降り、雨音で話し声がよく聞こえない。
20～30ミリ	どしゃ降り、側溝や下水、小さな川があふれる。
30～50ミリ	バケツをひっくり返したように降り、道路は川ようになる。
50～80ミリ	滝のように降り、土石流が起こりやすい。車の運転は危険。
80ミリ以上	雨による大規模な災害発生の危険あり、厳重な警戒が必要。

台風

日本列島には毎年多数の台風が接近または上陸し、強風と大雨によりたびたび大きな被害にあっています。台風情報に注意して被害が出ないように備えましょう。

台風の大きさは「風速15m/s（メートル/毎秒）以上の半径」、強さは「最大風速」で表されます。

〈風と被害〉

風速10～15m/s	かさがさせない
風速15～20m/s	かぜに向かって歩けない
風速20～25m/s	しっかり身体を確保しないと転ぶ
風速25～30m/s	立ってられない。ブロック塀が壊れる
風速30m/s～	屋根が飛ばされたり、木造住宅が壊れる

（気象庁による）

〈台風の大きさと階級分け〉

階級	風速15m/s以上の半径
大型（大きい）	500km以上 800km未満
超大型（非常に大きい）	800km以上

（気象庁による）

〈台風の強さと階級分け〉

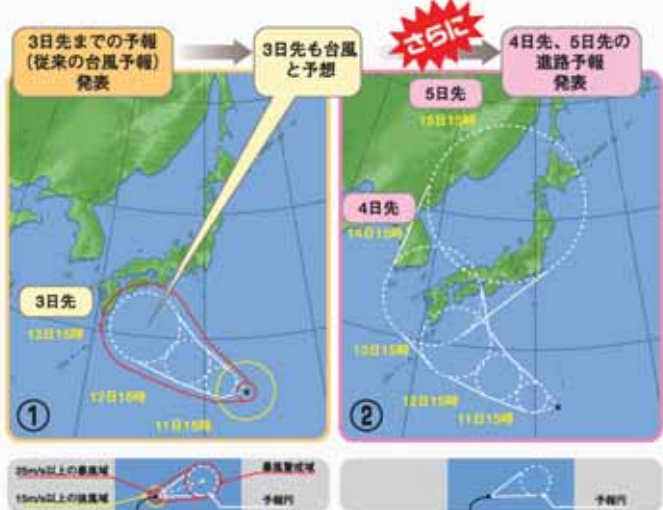
階級	最大風速
強い	33m/s以上～ 44m/s未満
非常に強い	44m/s以上～ 54m/s未満
強烈な	54m/s以上～

（気象庁による）

台風進路予報円が変わります

気象庁は、平成21年春から台風の進路予報を3日先から5日先まで延長しています。3日先までの予報（以下、3日予報）は従来通り発表します。3日予報で「3日先も台風の強さをもつ」と発表した台風については、3日予報に加えて、4日先、5日先の進路を予報円の形式で予報します（図）。図の予報例では、台風は3日先以降に進んで4日先には西日本、5日先には本州から北海道にかけて近づく可能性が高いことを示します。このように新しく開始される3日先より後の予想進路に基づいて、従来よりも早めに台風へ備えることができます。

なお、4日先、5日先の予報では、台風の強さ（中心気圧、最大風速、最大瞬間風速、暴風警戒域）の予報は行いません。



台風の予報円：台風の中心が70%の確率で入ると予想される範囲

災害に備えて家族みんなが防災会議

① 家族1人ひとりの役割分担

日常の予防対策上の役割と災害時の役割の両方について決める。寝たきりの高齢者、病人、小さい子どもがいる場合は、だれが保護を担当するかなども話し合う。

② 家屋の危険箇所チェック

家の内外をチェックして危険箇所を確認し合う。放置できない危険箇所については、修理や補強の方法についても話し合う。

③ 家具の安全な配置と転倒防止対策

家具の配置換えによって家の中に安全なスペースをつくれないう工夫する。また、家具の転倒や落下を防ぐ方法を考え、そのため新製品などがあれば教え合う。

④ 非常持出品のチェックと入れ替え・補充

家族構成を考えながら必要な品がそろっているかをチェックする。定期的に新しいものと取り替える必要があるもの（使用期限のある非常食、水、乾電池など）は、だれが担当するかなども話し合う。

⑤ 災害時の連絡方法や避難場所・避難経路の確認

家族が離ればなれになった時の避難場所を確認する。避難コースの危険箇所についても話し合い、できれば休日などを利用して、散歩を兼ねてみんなで下見をしておく。

安否確認などの連絡にNTT災害用伝言ダイヤル

171

ご利用にあたっての事前契約等は一切不要です。

家族間や知人間などの連絡に活用できます。

伝言の録音方法

171

1

ガイダンスが流れます

市外局番からダイヤルしてください。

(000) 000 - 0000

被災地の方はご自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を

伝言の再生方法

171

2

ガイダンスが流れます

市外局番からダイヤルしてください。

(000) 000 - 0000

被災地の方はご自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を

水害から身を守るために

近年の洪水の多くは、集中豪雨や記録的な大雨により、これまでにない深刻な被害が多数発生し、その被害も年々大規模なものとなっています。

私たちの住む街もいつ大規模な水害に見舞われるかわかりません。このような事態から自らの命・家族・財産を守るため、刻々と発表される防災情報を正しく理解し、迅速な避難行動に結びつけ、危険から身を守るための基礎知識として活用してください。

知って
おこう！

水位に応じた危険度レベル

川には、水位の高さに応じた危険度のレベルがあります。



小郡市(宝満川)の水位

河川名	宝満川
観測所	端間
水防団待機	2.4m
はん濫注意	3.6m
避難判断	4.00m
はん濫危険	4.65m
堤防設計	6.05m
観測員	国土交通省職員
電話	33-9131

※平成17年5月の水防法の改正に伴い、新たに『特別警戒水位』が設定されました。住民避難勧告の目安(避難に要する時間等勘案)となるもので、当該水位に達した場合に国が情報を提供します。なお、マスコミなどにも情報が流されることとなっています。

また、平成19年4月から『特別警戒水位』は『避難判断水位』に変更され、あらたに『はん濫危険水位』が設定されました。

端間観測所における避難判断水位は4m、はん濫危険水位は4.65mです。

色による分類

各水位は色によって区別され、はん濫の危険性の周知が徹底されるよう工夫されています。

レベル1 無着色
レベル2 黄色
レベル3及び4 赤色
レベル5 黒色

災害から身を守るために、日頃からの準備を！

水害ハザードマップ

万が一の水害時に、地域の住民の人々が安全に避難できる事を主な目的として、想定浸水深・避難所の位置及び一覧、緊急連絡先、避難時の心得等が記載されています。

防災マップや水害ハザードマップは、市役所へお問い合わせください。

●問い合わせ先 総務課防災・庶務係
☎ 72-2111 内線 244・245

